

〔ペーパーグライダー競技規定〕

1. 滞空競技は、本人が行う。
2. 計測前に競技主催者または計測員により簡単な機体確認を行う。
(機首スポンジ装着、記名の有無など)
3. 競技会の上位入賞者については、競技終了後、機体検査を行う場合がある。
4. 滞空時間は、機体の発進から飛行停止までとする。計測員は計測場所から移動せずに計測する。
5. 機体とゴムカタパルトは、必ず自分自身の手で持って飛ばすこと。
(お体の不自由な方は主催者にご相談ください)
滞空競技部門で使用するゴムカタパルトは、付属の全長 50cm 以下の赤色系ゴム 1 本を 1 重で使用し、支持棒に直接結びつけたものとする。
他の材料を付け加えることは認めない。また、支持棒は 15 c m 以内の木製とし、形状は自由とする。
(競技時には、市販商品内の支持棒を使い、主催者側で支給する糸ゴムを使用)
6. 機体が木や建物等の障害物に当たった場合、その時点で計測を打ち切る。
また、物陰に隠れた場合、機体を確認できなくなった時点でラップを使用し計測を中断する。
その後、飛行が確認されなかった場合、中断時点でのタイムを記録とする。
7. 計測は 2 回行い、そのベストタイムで競う。
8. 計測記録 1 秒未満は切り捨てとする。(例) 2 3 . 7 秒→2 3 秒)
9. 60 秒以上飛行したものは、Max 記録とし、一律 60 秒として集計する。
10. 3 秒未満の飛行は、1 回に限り再飛行を認める。
※この場合の再飛行は直ちに行う事とし、調整の為の飛行等は認めない。
機体が飛行不能な状態に破損した場合、修理・交換を認めるが調整飛行等は認めない。
11. 競技会において各部門の入賞者に同点があった場合はフライオフを行う。フライオフは、同点競技者全員が主催者の合図で同時に発進し、順位が決定するまで行う。
12. 計測は、自由計測方式、呼び出し方式いずれかとする。但し、正式計測直後の機体の回収に手間取る場合は、その旨申し出れば考慮されるが、主催者側の判断で指示する場合がある。